

6 循環器内科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

国内どこの医療施設に出向しても循環器内科医師として職務が勤まるだけの、広範かつ専門的な知識・技術・態度を身につけることができます。

2. 研修内容と到達目標

1年目

- ・ 循環器内科指導医とともに入院患者の診療にあたり、循環器学の基本的な知識と技術を修得します。
- ・ 救急科および循環器内科医指導医の指導のもと救急外来での救急診療の基本的な知識と技術を修得します。
- ・ 循環器疾患の診断と治療方針を的確に行えるよう、循環器内科指導医のもとに以下のことを行います。
 - ① 心電図診断
 - ② 心エコー（経胸壁および経食道心エコー：心エコー検討会に参加します）
 - ③ ホルター心電図の解析診断
 - ④ 心筋シンチグラム
 - ⑤ 運動負荷心電図上記検査を修得するため、外来および入院患者に検査を行います。心電図／心エコー／ホルターと心筋シンチ／運動負荷心電図を6ヶ月間ずつ研修します。
- ⑥ 心臓カテーテル（左心カテーテル、右心カテーテル、冠動脈造影法、心臓電気生理学的検査法）は術者として参加し、穿刺法とカテーテル操作技術を修得をします。そして、シネカンファレンスに参加します。
- ・ 高度医療技術（PCI、PTA、PTMC、PTMC、高周波焼灼術、ペースメーカー・ICD・CRTD 植え込み術、IABP など）を用いた治療法のトレーニングを受けます。

2年目

1年目の基本的な技術と知識をもとに、責任ある主治医としての立場で入院の診療を行います。循環器検査に積極的に参加し、その技術修得とレベルアップに、指導医のもとで努力をしてももらいます。4ヵ月間の救急科または心臓血管外科研修が可能です。

3年目

責任ある完全主治医の立場で、入院と救急診療を行い、高度な医療技術のさらなる修得に努めてもらいます。シニアレジデントとして自らの研鑽のみならず、後輩研修医の指導を積極的に行ってもらいます。

検討会の参加：回診、循環器内科抄読会、シネカンファレンス、外科合同カンファレンス、心エコー検討会、内科抄読会、CPC

教育研究活動の参加：学会報告、論文執筆、日本循環器学会・循環器関連学会教育セッション、

地域循環器研究会は、1年目から積極的に行います。
3年目終了後の進路：責任をもって部長および指導医がアドバイスします。